阿波女あきんど大賞

阿波女あきんど大賞とは、徳島の地域経済の活性化と女性の社会進出を支援するため、本市が各業界を代表する女性経営者とともに結成した「阿波女あきんど塾」が、阿波女の知恵と活力をいかし、徳島の経済活性化のため、活発に経済活動に取り組み、挑戦し続け、活躍している女性を応援する事業です。

女性の視点でプロジェクトの推進、商品開発等に取り組む経営者を表彰する「経営者部門」、女性が働きやすい職場環境の整備を行い、継続した意識改革を自社に対して働きかけている個人やグループを表彰する「個人・グループ部門」の２つを募集・審査しました。

2023 年は SDGs が目指す「誰一人取り残さない社会」の実現に向けて取り組む２人の女性が表彰されました。

詳しくは徳島市公式 note へ

阿波女あきんど大賞 経営者部門

株式会社ハビリテ
代表取締役
太田恵理子さん

▲現在、児童発達支援事業所「おやこ支援室ゆずりは」、医療的ケア児や重度の障害がある子どもを預かる「ゆずりは plus」、徳島市の認可保育園「ゆずりは保育園」と「リラクゼーションサロンゆずりは」の４つの事業所を経営する太田さん。

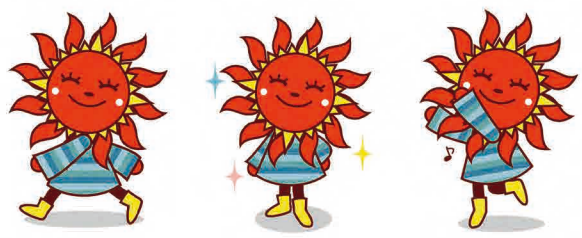
障害にまつわる絶望を希望に変える おやこを照らす光に

「新生児救命救急医療の発達に伴い、今まで生きられなかった命が救われています。これは非常に嬉しく、ありがたいことですが、医療の進歩に保育環境が追い付いていない。ケアが必要なお子様の行き先、預かり先が日本に足りていない」という太田さん。障害のあるお子さんを育てながら、自身がフルタイムの仕事を辞めざるを得なかった体験から、同じような境遇にある人をサポートする療育施設を作ろうと 2018 年 11 月に起業。2022 年 4 月 1 日には『ゆずりは保育園』を開園しました。

園内には認可保育園と医療的ケア児や重度の障害のある子どもを預かる施設があり、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などによるリハビリを保育園に通っている間に受けることができます。そうした子たちが小学生になっても利用できるよう、放課後等デイサービスも併設。障害のある子もない子も必要な支援を受けながら、同じ環境で過ごすインクルーシブ保育により、子どもたちは幼い頃から多様性に触れながら成長しています。

『株式会社ハビリテ』の社員は、ほとんどが女性。障害児ママも多く、「社員にも自身の夢を叶えてほしい」と実現させたい夢をリストアップし、互いに共有しています。その中で多かったのが「エステに行ってみたい」という夢。その夢を後押ししようと、理学療法士らが中心となって福祉や医療従事者向けエステサロンを開設。新しいことにチャレンジし続ける姿が、今回の受賞につながりました。

「私たちは“障害にまつわる絶望を希望に変えよう”と活動しています。そのためには保育現場に医療職の配置が必須。そのビジョンを共有し、多くの人に賛同いただけるよう、情報発信させていただきながら、周囲の理解を求めていきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします」。



genkiちゃん

株式会社ハビリテ
徳島市中島田町４丁目 53-1
TEL:088-679-7535
https://habilite.hp.peraichi.com/yuzuriha/

阿波女あきんど大賞 個人・グループ部門

株式会社日産サティオ徳島　経営管理グループ社長室採用・広報担当主任　**近藤咲子さん**

▲近藤さんは山川町出身。徳島大学を卒業後、新卒で『株式会社日産サティオ徳島』に入社し、営業を担当。「女性の営業さんの方が話しやすいと打ち解けて車の相談をしてくださるお客様や、支えてくれている仲間や上司のおかげで、今日の賞をいただけたと思います」という近藤さん。

▶2030年に株式会社日産サティオ徳島が目指す VISION と SDGs を組み合わせたイラスト。子どもたちにもわかりやすく、VISION に向け、社員一人一人がチャレンジしたくなるような１枚に。

株式会社日産サティオ徳島　徳島支店
徳島市応神町古川字日の上８
TEL:088-665-4551
https://ns-tokushima.nissan-dealer.jp/

前例のないことにチャレンジ 目指すは女性初の管理職

近藤さんが入社したのは今からちょうど 10 年前。女性営業職として活躍し、法人営業も担当。結婚し、産休、育休も取得。2022 年に仕事復帰した近藤さんの歩みは、会社にとって初めてのことばかりで、苦悩することも多かったと振り返ります。

「自動車業界は男社会。入社当時、女性の営業はいなくて、お客様から『車のこと、分かるん？』、『男性の営業マンがいい』などと面と向かって言われ、嫌な思いをすることもありました」。

結婚後、仕事を続ける女性社員も珍しく、産休・育休を取得したのも近藤さんが初めて。育休明けに時短勤務で仕事復帰すると「早く帰れていいな」など、子育てへの理解のない言葉に傷つき、ストレスが積み重なっていったといいます。

そんなとき、会社で受けたストレスチェックで「高ストレス判定」を受け、カウンセリングを受けることに。「もう仕事を辞めた方がいいかもしれない」と悩んだ末に出した答えは、「子どもは親の背中を見て育つもの。息子にとって憧れの存在でいたい。そのためにはここでがんばり続けるのが近道」というものでした。

そこでパパママ社員を集め、社内の子育て環境を改善するためのワークライフバランス委員会を設立。活動を通して、子育ての喜びや悩みを共有し、周囲への理解も広まっているといいます。

仕事にも意欲的に取り組み、空き会議室を一般開放したシェアスペースサービス『Gruppo!!』の運営、徳島市との包括連携協定を含む行政との連携事業や全社員が集う社員総会の実施など、忙しくも充実し、やりがいのある１年間を過ごした近藤さん。

「前例がないことで、今の時代に沿った働き方が私からスタート出来たことは大きかったです。休みをしっかり取り、時短勤務という限られた時間の中で効率的に業務を進め、キャリアアップしていくことが私の役目だと思っています」。

後輩のためにも女性初の管理職を目指そうと、日々邁進しています。